

報告・「沖縄 伝承の旅2006」

NPO法人沖縄伝承話資料センターと小澤昔ばなし研究所との共催で、「沖縄 伝承の旅2006」を開催しました。私もセンターとして初めての試みで、かなり不安を抱えながらの開催になりましたが、スタッフ並びに参加者の熱意で、なんとかご満足いただける「旅」をご提供できたのではないかと思っています。関係者のみなさま、ほんとうにお疲れさまでした。

「旅」を実行するにあたり、改めて「伝え話は地域の宝です!」ということを実感しました。その場で聞く「伝説」は、本で読んだり、部屋の中で聞いたりするのは格段に違います。そこには、その場所の持つ気があり、音があり、風があります。まさに「旅と伝説」です。この「旅」、会員のみなさんと、定期的にできたら楽しいだろうなあと、思いました。(比嘉久/二〇〇六・十一・六)

旅は、「踊り」ではじまった。

十月二十七日(金)午後六時三〇分、参加者と主催者の顔合わせ、そして交流会を行いました。歓迎のあいさつ、「沖縄の天人女房」のミニ講演(袴晴一郎)、参加者の自己紹介、語り、そして、「踊って」交流しました。



旅め出立ち観音堂：…♪

二八日(土)、出発地の首里メルパルクの近くには、「観音堂」があります。かつて琉球の役人が薩摩や中国に旅するときにその安全を祈願して拜んだ観音様。一行を代表して、比嘉が拜んできました。翌日にはみんなで参拝。うーとーとー!



いざ、やんばるへ!!

やんばるとは、沖縄本島の北部のこと。山が多い地域なので、昔からそう呼ばれています。五〇〇年以上前、そこに「北山城」というグスクがあり、地域を治めていました。

旅はそこをめざし、国道五八号線を北上。浦添市、宜野湾市、北谷町、嘉手納町と右手に常に「米軍基地」を見ながら、その地域に伝わる伝説を聞きましました。そして、黒船のペリーも休憩したという読谷村の「喜名番所」で、「楚辺ぼーぼー」を食べながら休憩。やがて、左手に海が見えてきました。東シナ海です。右手にはやんばるの山並み。でも、そこもほとんどが「基地」です。「恩納岳」うする安保うしぬきてい 皆望む平和 くがたなさな(恩納岳を覆う安

保という厄介ものを取り除き、皆が望む平和を取り戻そうよ!」。恩納村の生んだ歌人・恩納なべの歌をアレンジしてみました。名護が見えてきました。かつて名護湾には「ヒト(イルカ)」が寄り、人々は競って漁に加わりました。貴重な蛋白源でした。そして、屋部へ。「屋部の久護家」を見学、フクギの間を歩き、昼食です。ゆし豆腐とジューシーを頂きました。とても「ジューシー」でした。烏袋武門(たけかど)さん、宮里牧さん、岸本美枝子さん、比嘉和美さん、宮城孝子さん、ありがとうございました。





「すすぎのうまぐあー」も作りました。豆腐屋のおじい、豆腐だけでなく、いろんなもの作ります。孫に教えるのが一番の楽しみとか？小澤先生も作りました。

今帰仁城

午後は今帰仁。源為朝が上陸したという「運天港」を見て、お城に上りました。今帰仁城では「案内人」（確か大城さん）が、城内を案内。本土からの方が多いと知らず、「つい、いつものウチナー大和口しゃべってしまった。言ってくれたら共通語を使いよったのに…」と書いていました。そのままで、たいへんいいガイドでしたよ。ありがとうございました。

琉球国の財宝（尚家財宝）の中に「千代金丸」「冶金丸」「北谷菜切」という宝剣が三本ありますが、その内、石は切れても主人の腹は切れなかった「千代金丸」。城の石垣を積む際に、堅い石を豆腐のように切ることができた「北谷菜切」の話がここの今帰仁城の話として伝えられています。「冶金丸」は宮古の仲宗根豊見親が琉球王に送ったもの。

羽衣伝説の地

二日目は、羽衣伝説の地を訪ねました。まずは、浦添城です。そこは、天女の子として伝えられる「察度」の居城で、察度はこの城を拠点に中国との貿易を開始しました。港は「牧港」。そこは、源為朝の伝説の場所。復元を終えた「ようどれ」を見学して、いよいよ「森の川」へ。途中に察度が黄金を拾っていたという「黄金宮」を通過（バスの都合でバス）。羽衣伝説の地で羽衣の話聞き、お弁当の時間。NPO法人沖縄伝承話資料センターの事務所の向かいにある「ぎのわんセミナーハウス」の会議室で「はごろも弁当」を食べながら、「組踊・銘刈子」のビデオを見ました。ビデオながらじっくりと「組踊」を鑑賞することができました。もし、ほんものなら…：きっとたまらない感動が得られたかも。きっと実現しましょう。

こうして、第一回目の「沖縄 伝承の旅」が終わりました。今回の参加者の方々がモニターです。多くのご感想をお寄せ下さい。



参加者の感想

さっそく、感想が届きました。ありがとうございました。たくさん届いてますので、すべてをご紹介できません。ご了承ください。別の機会に報告します。

中身の濃い旅でした。「伝承」という対象が明確だったので良かったです。中でも屋部の集落を歩き、公民館で食事をいただいたのが一番感激でした。残念なのは、やはり山本川恒さんのお話が聞けなかったことです。ガイドも素晴らしく要点をきちんと押さえていました。遠藤先生の後を継いで、センターがますます発展されることをお祈りいたします。

有意義で充実した旅でした。現代の風景を透かして、いにしえの人々の存在を感じ取ることができました。用意してくださった資料が素晴らしいです。プログラムが土曜日に偏っていたかなと感じます。見聞したこと、感想を述べ合う時間があったらいいと思います。宿泊は、やはり一箇所にできるといいですね。

生活の中に民話が生きていることを実感しました。地域の人のつながりの深さ、協力する姿が、どんなに人の心を穏かにするものかということを学ばせていただきました。

お話しが自然に口をついて出てくるようになって驚きました。食べ物もおいしい。

来年の企画も今から楽しみにしています。